

富良野市の景観づくりの考え方

富良野市の景観特性

- 景観の骨格を創り出す自然・地形
- まちの成り立ちや産業を物語る歴史・文化
- 市外の観光客に評価される景観資源
- 自然環境に垣間見る市民の愛着
- 広域の中の拠点都市

ヒアリング結果(景観づくりの課題)

- 農地への観光客の立ち入り
- 農地の大規模化と維持管理
- 歴史的建造物、樹木の保全と活用
- まちのイメージと合わせたクリーンな農業
- 市街地、リゾートエリアの景観誘導(エリアごとの景観誘導)

富良野市の景観の価値

美しい自然環境を背景とした人々の営みが景観を創り、観光資源となっている

美しい景観を守っていくための
景観計画による景観誘導

×

人の営みが創り出す
景観のマネジメント

景観と農業や観光が密接に連動しているため、仕組みがあることで持続可能となる

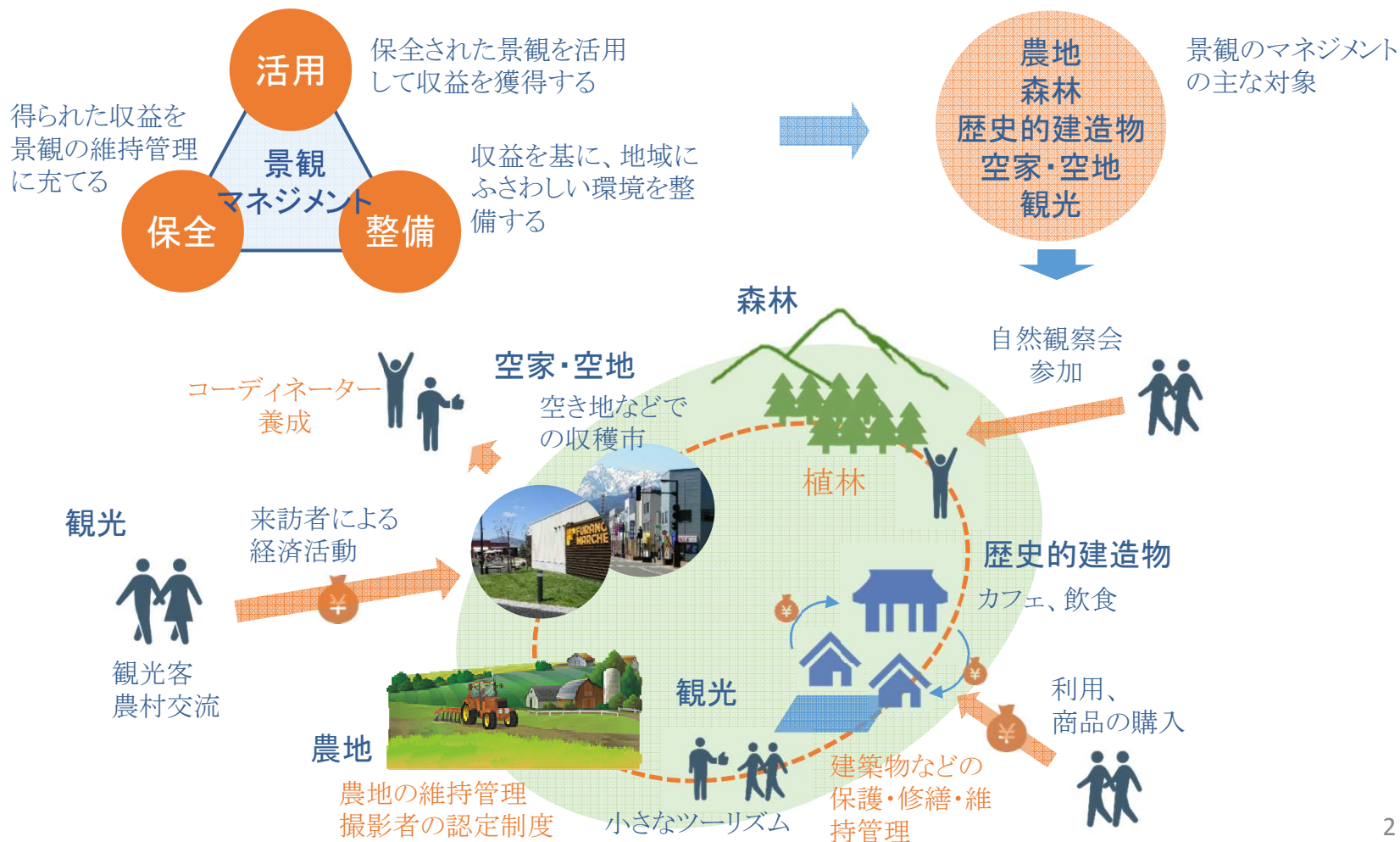
景観誘導と景観のマネジメントの考え方を踏まえた持続的な景観づくりへ

- 基本理念(目指す姿)、基本方針
- 景観計画の区域
- エリアごとの景観づくりの展開(推進方策を含む)

富良野市の持続的な景観づくりを進める

景観のマネジメント(イメージ)

- 景観のマネジメントは、保全・整備・活用による進める仕組みと考えます。
- 今の富良野市の景観が形成された過程や経済活動の中にも「景観のマネジメント」の考え方が息づいているため、仕組みとして認知されることで、持続的な景観づくりの効果が高まると考えられます。



「推進方策」として検討する視点

- 富良野市の美しい景観を守る誘導(景観形成基準・届出制度)に加えて、「エリアごと」や「多様な主体」が協働で取り組む(推進方策)ことで、景観づくりの効果が高まると考えられます。
- 推進方策は、エリアごとでの展開、市民・団体・事業者・行政など多様な主体が関わって協働で行っていくことが考えられます。

■エリアごとの展開



■多様な主体

